土岐市ネイチャーセンター
☎㊾5144

## 花言葉「いじらしい」 －ウメバチソウ－

陶史の森のシラタマホシクサの群生の中にポツポツと白いかわいい花が咲きます。ニシキギ科の多年草、「ウメバチソウ」です。

名の由来は、花を菅原道真の亡骸が祭られている太宰府の天満宮の神紋「梅鉢紋」に見立てて「ウメバチソウ」の名になったといわれています。

山地帯から亜高山帯の日当たりのよい湿った草地に生えます。陶史の森の湿地は生育に適した場所になります。花期は、８～10月頃、花の大きさは2～3cm 程で茎の先に上向きに5弁花を一輪つけます。

ウメバチソウの花の仕組みは独特です。花の中心部にめしべと5本のおしべがあり、おしべのつけ根に細分化した仮おしべがあります。

仮おしべは実に芸術的です。玉のようになった先端は、外側が白っぽくて扇のように広がっています。花粉は出ませんがつけ根あたりから昆虫を集めるための蜜を出します。美しい様相と蜜で見事なまでに昆虫を誘う役割を演じています。昆虫は、おしべから花粉を受け取り、次の花へと渡っていくのです。

開花後、おしべは、ほぼ1日に1本ずつ花糸（おしべの柄の部分）を伸ばし反り返ります。そして成熟し花粉をもちます。５日程かけて５本のおしべが反り返り成熟します。その後、めしべに柱頭ができ、めしべが成熟します。おしべとめしべの成熟の時期をずらすことで自家受粉を避ける方法をとっています。より適切に「種」を残すための工夫です。

花言葉は「いじらしい（あどけない）」ですが、なかなかの「したたかさ」を持っている花です。陶史の森の貴重な花の一つです。

花糸がこれから伸びるウメバチソウの花

３本の花糸が伸びたウメバチソウの花

ウメバチソウとシラタマホシクサ

## 森の日記 川の生き物教室

8月2日(日)

陶史の森やせせらぎ公園に流れる小川にはどんな「川の生き物」がいるのかな？

長引いた梅雨が明けた次の日、真夏の太陽が輝く中で、冷たい小川の中に入り、一生懸命に探し観察しました。タモロコ、ヨシノボリ、ヌマエビ、ハヤの稚魚、カワニナなどがいました。意外にたくさんの生き物を観察することができて大喜びでした。気持ちよかったですね。

## 教室のご案内

**9月**

バードウオッチング（要申込　定員10名）
９月27日（日）午前９時～11時30分　雨天中止

**10月**

きのこ教室（要申込　定員20名）
10月４日（日）午前９時～11時30分
陶史の森に生えるキノコを観察します。
※９時～10時　各自キノコ採集
10時～11時　小グループ判別会　その後解散
（ウッディドーム　講師対応）
11時～　各自解散　全体会はありません。

秋の天体教室　（要申込　定員10名）
10月24日（土）午後７時～　雨天中止
集合場所：第２駐車場
月と火星を観測します。

バードウオッチング（要申込　定員10名）
10月25日（日）午前９時～11時30分　雨天中止

陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。